

# 農村女性 第22号 ネットワーク通信

H24年3月

## 高知県農村女性リーダーの認定

平成23年度高知県農村女性リーダー認定者への認定証授与式が平成24年2月10日（金）に行われました。今年度に認定を受けられた方は次の6名で、認定者総数は294名となりました。



（左から）

籠谷理香さん（芸西村）トルコギキョウ・水稻  
田岡仁美さん（本山町）水稻、ショウガ、アスパラガス、トマト

近藤理香さん（土佐町）米ナス、水稻、ユズ  
十河智子さん（高知市）イチゴ・水稻  
山下明美さん（高知市）キュウリ・ショウガ等  
泥谷通代さん（土佐清水市）キュウリ・米ナス

## 認定研修会

認定証授与式に先立ち高知会館で、認定研修として高知県農村女性リーダーネットワークの西笛千代子会長、山岡美千代副会長、島田聖子副会長と環境農業推進課の職員（事務局）とで、農村女性リーダーの認定制度の趣旨や、ネットワーク活動状況など



の説明が行われました。

西笛会長からは、農村女性リーダーになることで、色々な方と関わりが持てるようになる。その中には、自分ができないことを得意とする人がいる。農村女性リーダーの活動を通して、色々な人と知り合いコミュニケーションを取ることで、自分自身が二重三重にも成長していけるとお話しがあり、新規認定者にエールを送りました。

## 認定証授与式・意見交換会

その後、場所を高知県庁第二応接室に移して、環境農業推進課の二宮一寿課長や、武井久チーフ、認定者の住所地を管轄する農業振興センターの職員などが出席した認定証授与式および尾崎正直高知県知事との意見交換会が行われました。



認定授与式では、尾崎知事から一人ひとりに認定証が手渡されました。

意見交換会では、認定者ごとに経営内容や地域での活動状況といった自己紹介や、農業振興に対する意見などが出され、尾崎知事と意見交換がなされました。

籠谷理香さんからは、非農家の夫が突然「田舎で農業がしたい」と言い出し、自分は子供の頃から身をもって農業の辛さを知っていたので反対したが、どうしてもというので帰ってきて花を作り始めたことや就農時の苦労話などのお話しがありました。

田岡仁美さんからは、新規就農した年に作ったお米の「土佐天空の郷」が「おいしいお米コンテスト in しずおか」で最優秀賞の1位になったこと、吉延営農組合や地域の人達とで頑張っていることなどのお話しがありました。

近藤理香さんからは、今力を入れているのは米粉の活用で、地元のイベントで米粉うどんを出したりしている。皆にもっと米粉の良さをPRして行きたい。米粉と言えば、パンや麺を思い浮かべるが、そ

れ以外の活用法も色々知らせていきたいなどのお話がありました。



十河智子さんからは、生産しているイチゴのPRに地元小学校の合唱団「KERASTROベリーキッズ」に協力をしてもらっていること、イベントでは「けらいちごの歌」を歌ったり、その子どもたちが写ったポスターを作ってイチゴのPRに取り組んでいることなどのお話がありました。

山下明美さんからは、アールスメロンを作っていたが、重油やビニール等の資材の高騰などからキュウリ、ショウガ等に品目転換したこと、ショウガ部会では女性部会を作って試食宣伝を行っていること、地元小学校でショウガを使ったサラダやジャムづくりを行ったことなどのお話がありました。



泥谷通代さんからは、レンタルハウス整備事業を活用してキュウリと米ナスを作っている。苦労したが、最近では上手に作れるようになり売上も上がっている。私も消費宣伝活動に協力しており、5年前から年1回、神奈川県横浜市に試食宣伝に行かせてもらっているなどのお話がありました。

知事からは、皆さんには今後是非、女性の力を発揮していただきたい、その思いから長年に渡って農

村女性リーダーとして認定させていただいている。実際に農村女性リーダーの先輩方にも、大変お世話になっている。



高知県は今、産業振興計画を推し進めているが、全国を見渡しても人口減少と高齢化がこれほど進んだ県はない。高知県を盛り立てていくためには、外から外貨を稼いでくることが大事であり、その要となるのが一次産業と考えている。



例えば、同じナスでも高品質なものが穫れるのは高知県、このクオリティの高さを生かして、高知県の野菜を売り出していきたい。そして農業を軸に他の分野、加工や民泊など、農業を真ん中に据えて、産業が広がっていく構図を期待している。

若い人に跡継ぎになってもらえる農業を、皆が幸せに暮らしていける県へと成長させたいと考えている。皆さんにも、是非お力を賜りたい。とのお話がありました。



## 安芸マダム直伝！絶品なす料理教室

安芸・室戸地区 野町 亜理

平成 24 年 2 月 26 日（日）、高知市の四電ビルにあるヨンデンプラザにて、料理講習会「安芸マダム直伝！絶品なす料理教室」を行いました。

I H 調理器具の普及をしているヨンデンプラザにて、高知県下で取り組まれている環境保全型農業（エコ栽培）を県内の消費者の方々に理解してもらうこ



とで、地産地消へつながられたら、そして私達農業女性も、安心安全な美味しい野菜作りにト

ライしていること、また、手軽に作れる、なす・ピーマンのメニューを紹介することで、高知育ちの野菜を、より身近に感じて欲しいとの思いで料理講習会を開催しました。

エコ栽培の紹介は、なすバージョンのパワーポイント資料を用いて農村女性リーダーが作成して、今回の説明

に使用しました。なす・ピーマンのメニューは、打ち合わせや準備会を重ね、な



すのパウンドケーキ・ピーマンの塩昆布合え・ラタトゥユ・なすコロッケ・なすのタタキにしました。料理教室に参加してくださった方々は、熱心に私達のパワーポイントによる説明を見てくださって、調理の際は、楽しい会話も混じって、和やかに、リハールでの手順や調理時間通りに進みました。

試食では、意外と簡単に出来るメニューでも美味しいことが受け入れられたようで、嬉しく、安心したことでした。しかし、ほとんどの参加者が、エコ

栽培のことを知っていなかった……。このことを受け、これからは私達農家のすることが分かりました。まだまだ「のびしろ」はあるんだ！高知に住む人に味方になってもらえるチャンスがあることを知る良い機会だったと思いました。

次に、午後からのクッキングショー「安芸のなすやピーマンを使った田中シェフの土佐のフレンチ」では、高知パレスホテルの総料理長の田中秀典さんから、なす・ピーマンを使った 5 品のオリジナルメニューを提供していただきました。

安芸・室戸地区では、年間メイン活動として取り組んでいる「つどい」での地産地消ビュッフェ・メニューにも入れて、地域の農業女性へもつなげていきたいと思います。このクッキングショーの試食会

の際には、私達が調理した、なすのお好み焼き・なすのピザ・なすゼリーも試食してもらい、ヨンデンプラザのフロアがさながら立食パーティーの会場を思わせる賑わいに、今回のイベントの成功を感じました。



## 高南地区野菜カルタによる食育活動

高南地区 居長原 信子

平成 24 年 1 月 30 日、四万十町立川口小学校の 5～6 年生 9 名を対象に、ニラの栽培方法や野菜カルタを使った授業後、四万十町のニラを使って、ニラ

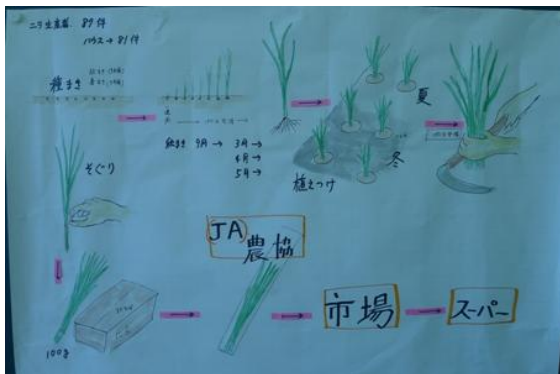


のおやき作りの実習を行いました。

まず最初に、農村女性リーダーの

廣田茂子さんが野菜カルタに取り組むようになったきっかけを話した後、手作りした資料を使って、ニラの種まきからスーパーに並ぶまでを説明しました。

その後、野菜カルタを使って花あてをしました。児童からは、「四万十町にニラ農家が大勢いるのにびっくりした。」「ニラは知っちゅうけど花はわからん。」



「ゴマの花は初めてみた。」等の意見がありました。また、ニラのおやき作りでは、農村女性リーダーの武市由美さんが料理方法を説明した後、3班に分かれて実習を行いました。「生地をまるくするのが難しかった。」「ホットプレートで作れるので簡単やった。」「ニラのおやきは簡単にできておいしかった。」等の声がありました。

後日、学校の方から子ども達の感想文をいただきました。



感想文を読んで感じたことは、いかに正確に情報を伝えることが大切か、食べ物がどのように育ち、自分達の口まで運ばれてきたのかという食をめぐる環境をどのように伝えるか、また、楽しく授業を終わらすだけでなく、どうやって次につなげるかなど、この食育活動を通して、たくさんのことを学びました。

## 伊野地区郷土料理の伝承会

中央西地区 大原 美智子

私が所属している伊野地区生活改善グループ連絡協議会では、いの町住民の方を対象に、平成23年12月12日には郷土料理、そして平成24年2月20日にはしょうが料理の講習会を行いました。また、平成24年1月25日には、高知県立農業大学校2年生を対

象にしょうが料理の講習会を行うなど、今年は、20才から70代後半まで約100名にしょうが料理の講習を行



いました。その中で感じたことは、「しょうがの辛さ」に対する個人差がとても大きいということです。使用するしょうがの分量は個人差を考え、あまり多くはしていません。同じ料理を食べて「からい～」という人から、「もっとしょうがを効かしても」という人、「日頃しょうがをよく使う」人、「あまり使わない人」さまざまです。子どもの頃から日常的に食べて



いる人の方が「しょうがの辛さが好き？」という気がしました。

今後の取り組みとしては、伝えていきたい郷土料理をメニュー化し、講習会の機会を増やしていくとともに、多くの女性リーダーにも活動に参加できるよう、呼びかけていきたいと思っています。

### 【編集後記】

私たちが編集した通信はどうでしたでしょうか？  
来年度はカラー版になるそうなので楽しみです。

編集委員 西笛・能勢・島崎・松村

### 【お問い合わせ等は事務局まで】

高知県農業振興部環境農業推進課 担当 武井  
電話 088(821)4535

ネットワーク通信はホームページでもご覧になれます。  
<http://www.nogyo.tosa.pref.kochi.lg.jp/nogyosha/zyosei/>